

令和7年度



しもよねだ

第8号

令和7年10月31日(金)

節目をいかす

校長 安藤 由美子

秋の大きな行事である運動会が終わりました。当日の姿から、子ども達の成長を感じた瞬間を紹介します。

- 競技の前には、見所を紹介する放送が入ります。放送係の感情の込められた流れるようなアナウンスは周囲から賞賛の声があがり、開始から会場を盛り上げました。
- 器具係は、競技の間に何度も道具を準備しなければなりません。その度に全力で走り、きびきび動いてスムーズな進行を支えました。
- たとえ負けていても、手を抜かずに最後まで競技に取り組む姿、声が枯れるほど大きな声で仲間を応援する姿は、すがすがしさにあふれていました。
- 開閉会式を取り仕切る運営委員の司会、代表児童の話は、自分たちのこれまでの取組から生まれた自信にあふれ、堂々としたものでした。

なかでも印象に残ったのは次のような場面です。

- 低学年の演技中に旗を落とした児童が、何事もなかったかのように踊り続け、隊形移動の時にすばやく旗を拾い上げました。
- ゴールや順位発表の時、団に関わらず、温かい拍手を送る姿が続きました。

どちらも、子ども達がこれから生きるうえで身に付けてほしいと思う力が育っていることを実感した場面だからです。前者は、想定外のことが起こった時に自分でどうしたらよいかを考え、動くことができる力、後者は、人としての温かさです。

学校生活には節目となる大きな行事が幾つもあります。その節目に、子ども達はぐっと集中して活動に取り組み、一回りも二回りも成長した姿を見せてくれます。運動会もそうした節目の一つです。予想以上の姿を見せてくれたことを嬉しく思います。



迫力満点！ 5・6年生によるソーラン節